

# 第3次

# 岡崎市生涯学習推進計画



令和3年3月  
岡 崎 市



# 目 次

<b>第1章 生涯学習推進計画の策定にあたって</b> .....	<b>1</b>
1 計画の背景・目的.....	1
2 「生涯学習」の考え方.....	2
3 国・県における生涯学習の動向.....	3
4 計画の位置づけ.....	4
5 計画の期間.....	4
<b>第2章 岡崎市の生涯学習の現状と課題</b> .....	<b>5</b>
1 生涯学習をとりまく社会環境の変化.....	5
2 岡崎市の生涯学習の取組状況.....	7
3 市民ニーズや活動状況（市民意識調査）.....	11
4 岡崎市の生涯学習の主要課題.....	16
<b>第3章 基本構想</b> .....	<b>18</b>
1 基本理念.....	18
2 基本方針.....	19
3 成果指標.....	19
<b>第4章 基本計画</b> .....	<b>20</b>
1 重点施策一覧.....	20
2 具体的な施策.....	21
施策1 多様な学習・交流機会の提供.....	23
施策2 市民が利用する学習施設の充実.....	27
施策3 情報提供・相談支援の充実.....	29
施策4 地域における生涯学習の推進.....	31
施策5 生涯学習を支援する人材の育成・推進体制づくり.....	33
別掲 図書館に関する施策一覧.....	35
<b>第5章 計画の推進に向けて</b> .....	<b>40</b>
1 計画の推進.....	40
2 生涯学習における活躍と学びの循環.....	41
3 計画の進捗管理と評価方法.....	42
<b>資料編</b> .....	<b>43</b>
1 岡崎市生涯学習推進委員会 委員名簿.....	43
2 第3次岡崎市生涯学習推進計画 策定経過.....	43

## 1 計画の背景・目的

岡崎市では、全ての市民が輝き、いきいきと、生涯を通じて学び続ける都市を実現するため、平成13(2001)年度から平成22(2010)年度を計画期間とした「岡崎市生涯学習推進計画」を策定しました。この計画に基づき、デジタル社会に対応した手法で生涯学習情報を発信したり、多種多様な学習機会を提供したりするなど、数々の事業を展開し、市民が生涯学習活動に取り組みやすい環境づくりを目指してきました。

平成20(2008)年11月には、岡崎市生涯学習推進計画の施策に基づき、生涯学習の中核施設である図書館交流プラザ(通称Libra:りぶら、以下「りぶら」とします。)を開館しました。りぶらは、「中央図書館」、「活動支援」、「文化創造」、「交流」の4つの機能で構成され、市民の多様な生涯学習ニーズに対応しています。

さらに、平成23(2011)年度から令和2(2020)年度を計画期間とした「第2次岡崎市生涯学習推進計画」を策定し、りぶらを中心として、各地域の特徴を生かしつつ、市民一人一人がさらに豊かな人生を育むことができるよう様々な施策を総合的に推進してきました。

近年では、少子高齢化や核家族化、地域のつながりや人間関係の希薄化などにより、家庭や地域における教育力の低下が懸念され、デジタル社会の進展や環境などの問題も多様化していることから、こうした課題への対応が求められています。

このような状況の中で、子どもを支え、活力ある地域づくりを推進するため、学校、家庭、地域が協働、連携して家庭や地域での教育力の向上を図り、また、公共性や社会性をもった学習機会の充実と、市民一人一人の行動が期待されています。

それぞれの課題に対応するため、一人一人の生涯を通じた学習を支援し、学習の成果を学校、家庭、地域の課題解決などに活かすことによって、社会全体の教育力を向上させ、その成果を通して新たな学習需要を生み、社会全体の活力を持続させることが求められます。

これらの考えに基づき、市民の生涯学習活動をより一層計画的に推進するため「第3次岡崎市生涯学習推進計画」(以下「本計画」とします。)を策定しました。

## 2 「生涯学習」の考え方

生涯学習とは、全ての人が、それぞれの生涯を通じて人生を豊かにするために、自発的な意思に基づき主体的に行う学習活動の総称です。生活に必要な知識、技術の習得、余暇に楽しむ趣味や文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、地域の課題に取り組むボランティア活動など、様々な内容が生涯学習に含まれます。

生涯学習は、学習の形態も多様です。学習者は、それぞれの目的や動機に応じて、自分に適した学びの場や学習方法を選んで自由に取り組んでいます。今後は、いつでもどこでも気軽に学び交流できるようなオンラインによる学習など、新たな学習形態も普及することが見込まれます。

また、新たな知識、技術を学ぶばかりでなく、既に持っている知識、技術を他の学習者に分かり伝えることも、生涯学習の一つです。このように、学習の成果を新たな活動につなげ、学びを通じて人と人あるいは人と地域とが「つながる」ことで、地域のコミュニティを形成することも、生涯学習が果たす大きな役割であると言えます。

今日、社会の変化が急速に進むなか、個人の価値観は多様化し、家庭や地域社会のあり方も様々な形に変わってきています。このような社会変化に対応するため、そして、より豊かでいきがいの感じられる人生を送るために、一人一人が、自発的、主体的な学習を続けることが重要であると考えられます。

### 3 国・県における生涯学習の動向

本計画では、国が示す社会教育の方向性や意義、役割、さらに愛知県が推進する計画を踏まえて、本市が推進すべき生涯学習の方向性や役割などを整理しています。

#### (1) 国の動向

文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会は、平成20(2008)年に「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」を答申し、人々の学習成果が、新たに生み出される学習需要と結びつけられることで活用されていく「知の循環型社会」の構築を提言しました。さらに、平成30(2018)年12月に答申された「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」においても、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、社会教育を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりが示され、個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を示しています。

一方で、平成25(2013)年度から平成29(2017)年度を計画期間とした「第2期教育振興基本計画」では、4つの基本的方向性の1つとして「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を掲げ、人々が主体的に社会参画し相互に支え合うための環境整備を重視しています。さらに、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度を計画期間とした「第3期教育振興基本計画」における教育政策の重点事項として、「超スマート社会(Society 5.0)<sup>\*1</sup>」の実現に向けた技術革新が進展するなかで人生100年時代を豊かに生きていくためには、人づくり革命、生産性革命の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要と位置づけています。さらに、基本的方針として、生涯学び、活躍できる環境を整えることを掲げ、「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」、「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進」、「職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進」、「障がい者の生涯学習の推進」の4つの目標を示しています。

#### (2) 愛知県の動向

愛知県では、生涯学習に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査審議するため、平成5(1993)年度から生涯学習審議会を設置しています。さらに、生涯学習推進体制の整備、充実を図り、様々な学習機会の提供を行うための施策を実施することを目指し、平成7(1995)年度から生涯学習推進本部を設置しています。

この推進本部において、平成30(2018)年度から令和4(2022)年度を計画期間とした「第2期愛知県生涯学習推進計画」を策定し、「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」を第1期計画から継承する基本理念として掲げるとともに、生涯学習施策を展開する5つの基本的な柱、施策として、「長寿社会を豊かに生きる生涯学習」、「家庭と地域の教育力を高める生涯学習」、「持続可能な社会づくりを進める生涯学習」、「職業的自立を高める生涯学習」、「生涯学習推進体制づくり」を示しています。この内容を踏まえて、各部局が社会経済情勢の変化に的確に対応して、関連する施策をそれぞれの目標に向けて推進できるよう、「愛知県生涯学習推進計画事業」を取りまとめて、具体的な施策の展開を図っています。

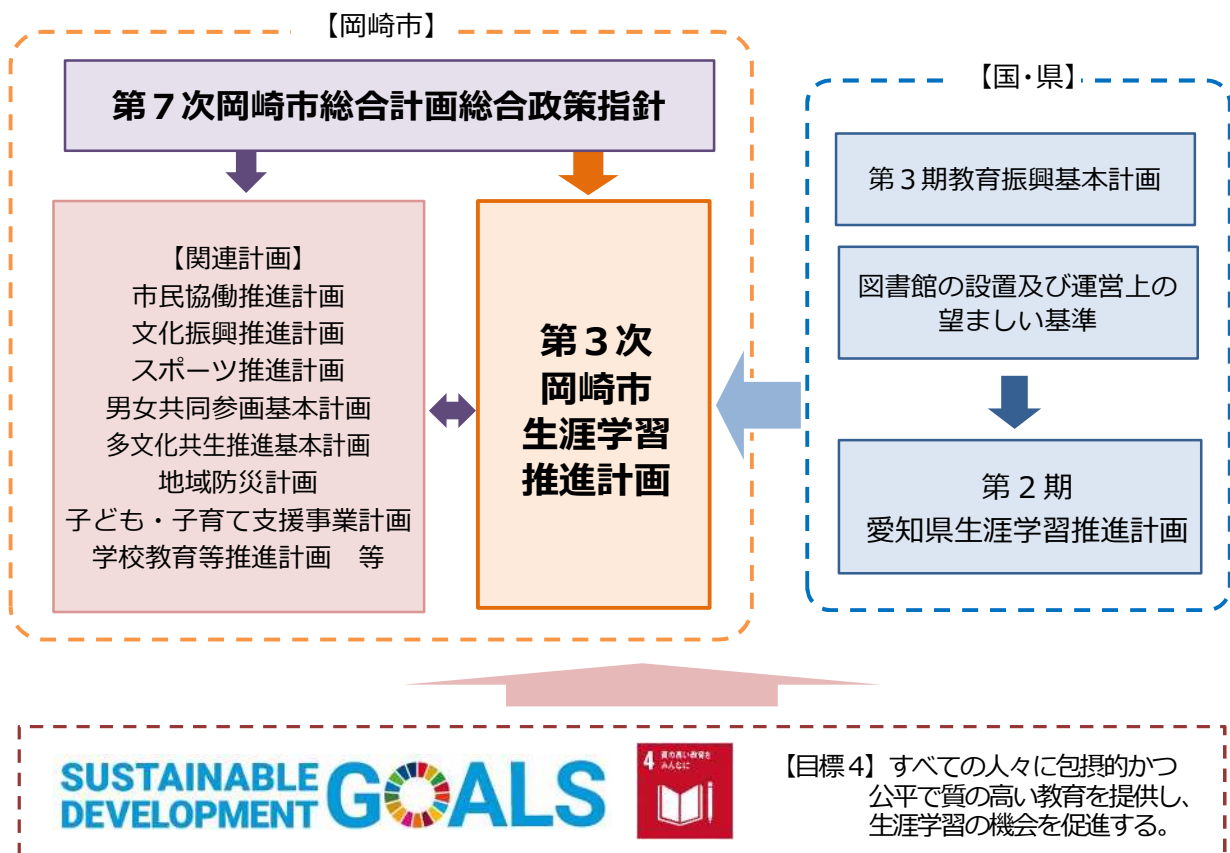
※1 狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」

## 4 計画の位置づけ

本計画は、第7次岡崎市総合計画総合政策指針を上位計画とし、生涯学習活動を推進するための計画であり、国や県の計画及び本市の関連計画とも整合を持たせた計画としています。

また、本計画では学習成果を社会に還元し地域課題解決に結びつけていくことも求められることから、市民協働を推進し豊かで市民力を活かした地域社会を実現することを目指して策定された「第3期岡崎市市民協働推進計画」と連携を図りながら計画を推進します。

さらに、国連で採択されたSDGs<sup>※2</sup>（持続可能な開発目標）にも、生涯学習の視点から関連性を持って事業を展開し、その推進に貢献します。



※2 Sustainable Development Goals の略。持続可能な世界を実現するために、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標。地球上の誰一人として取り残さないことを目指し、国際社会全体に関わる幅広いテーマの17のゴール（目標）が定められている。

## 5 計画の期間

計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とします。

なお、計画の実施状況を定期的に確認し、今後の社会情勢や市民ニーズの変化、さらに上位、関連計画との整合性などを踏まえ、必要に応じて中間段階で計画の検証を行います。

### 1 生涯学習をとりまく社会環境の変化

#### (1) ライフスタイルの多様化、新しい生活様式

人々のライフスタイルや価値観が多様化し、余暇時間を有意義に活用して趣味やスポーツを楽しむなど、モノの豊かさよりも心の豊かさを重視した成熟社会へと変化しています。今後は、市民それぞれのニーズに応えた多様な学習機会を提供していく必要があります。

また、感染症予防などに配慮した「新しい生活様式」の普及が見込まれることから、そうした変化に対応した新たな学びのあり方や環境づくりを模索していく必要があります。

#### (2) 家庭や地域の教育力の低下

都市化の進展などにより、地域におけるコミュニケーションが希薄化し、世代間の交流が減少しています。また、子どもを取り巻く環境において、少子化、核家族化の進展とともに、家庭や地域での教育力の低下が懸念されています。

このような状況の中で、子どもを支え、活力ある地域社会を実現するため、家庭教育への支援や地域での青少年の育成支援などを通して、学校、家庭、地域の協働、連携により、「生涯学習の基礎づくり」として、家庭や地域での教育力の向上を図る必要があります。

#### (3) 少子高齢化の進行

出生率の低下や平均寿命の延伸などにより、少子高齢化が急速に進展しており、現在本市においても約5人に1人が65歳以上の高齢者となっています。この状況が、年金、医療、介護などの社会保障費の増大や、労働人口の減少など、社会経済全般にわたって徐々に影響を及ぼしています。市民が安心して子どもを生み育て、また、高齢者が「人生100年時代」を健康でいきがいを持つことができるような環境づくりをしていく必要があります。

#### (4) デジタル社会の進展

ICT<sup>※3</sup>の進歩は、インターネットやスマートフォンなどを急速に普及させ、生活の利便性を向上させるとともに、生活スタイルや人間関係づくりなど市民の社会生活のあり方を大きく変化させています。

超スマート社会（Society 5.0）の実現に向けた技術革新が進展するなか、必要な情報を識別、認識し、活用する能力を身につけるとともに、情報セキュリティ、情報モラルなどの対応が求められています。



※3 「Information and Communication Technology」の略で、チャットやスマートスピーカーなど、人同士のコミュニケーションに関わるコンピューターの使い方や通信によるコミュニケーションの活用法のことを指す。ITが情報技術そのものならば、ICTはそれを使った情報通信技術を意味する。



**(5) 多文化共生社会の進展**

社会問題が国の枠を超えて世界中に広まり、私たちの生活は世界の動きからの影響を直接受けるようになってきています。その結果、地域経済、教育、文化など様々な場面で「多文化共生」が重要視されています。このため、国際的視野と多文化理解を深める活動を通じて多文化共生に対する市民の関心を高めていく必要があります。

**(6) 図書館の役割の見直し**

1960年代後半に始まった貸出中心の図書館サービスは、図書館施設の数と規模、資料の蓄積と職員の増加、図書館利用の飛躍的増大をもたらしました。一方で、少子高齢化、デジタル社会、多文化共生社会が急速に進む中で、社会構造の変化や地域の課題の増加や複雑化などに対応した図書館サービスの見直しが急務となっています。さらに、人々の支え合いと活気のある社会づくりに向けて一人一人が「新しい公共」の担い手となることが求められ、地域が抱える様々な課題解決の支援や、地域の実情に応じた情報提供サービスなど幅広い観点から社会貢献することが期待されています。

**(7) 社会課題の複雑化**

現代の社会は、環境問題、エネルギー問題、食糧問題など様々な課題に直面しており、市民の関心も高まっています。今後は、市民一人一人がこれらの問題を意識し理解を深めるとともに、環境への負荷を低減する暮らしを実践し、環境に優しいまちづくりを推進する必要があります。

## 2 岡崎市の生涯学習の取組状況

### (1) 主な実施内容や成果

第2次岡崎市生涯学習推進計画を踏まえて、関係機関との連携を通じて取り組んできた各種生涯学習の取組の主な成果について整理します。

#### 【①生涯学習拠点施設の充実】

- ・平成20(2008)年に、図書館を核とするりぶらがオープンし、多くの市民が自ら学び活躍できる拠点として年間約140万人の利用者があり、中心市街地の賑わいづくりの拠点としても機能しています。
- ・地域図書室を併設する市民センターや各学区の市民ホーム、さらに各種の文化、スポーツ施設が整備され、民間事業者のノウハウも活用しながら効率的に運営しています。



図書館交流プラザ・りぶら

#### 【②各種講座の充実】

- ・これまで開催してきた講座のマンネリ化や重複を避けるため、受講者アンケートをもとに新規講座を開設するなど、多種多様な講座が開催されています。
- ・乳幼児やその保護者を対象にした「親子ヨガ教室」など、親子向けの子育て支援などに関する講座が充実し、多くの参加者を集めています。

#### 【③障がいのある方のための講座の展開】

- ・平成25(2013)年に制定された「障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)」などを踏まえて、障がいのある方のための講座を展開しています。

【④活躍と学びあいのきっかけづくり】

- ・新たな生涯学習スタイルとして、市民活動団体と協働した「りぶら講座<sup>※4</sup>」を開催し、多種多様な講座で受講者のニーズに対応することで、「学びのきっかけづくり」の場として新たな学習者の掘り起こしなどを効果的に進めています。また、自分が学んだ知識や技能を教えたい、伝えたいと考える講師希望者に対する講座機会の提供、定期講座<sup>※5</sup>への講師採用など、「りぶら講座」を学んだ成果を活かす場としても推進しています。



りぶら講座の様子

【⑤地域での学びと社会還元】

- ・市民センターなどを拠点として、地域の特色や課題を踏まえた講座やイベントが行われ、学習成果を地域社会に還元する動きが徐々に広がっています。平成27(2015)年度に実施したアンケート調査でも、「生涯学習で学んだ成果を活かし、人のためになる活動につなげたい」と回答した市民が約半数を占めています。
- ・地域の特色や課題を踏まえた生涯学習を推進するため、市民活動団体などと協力して市民講座<sup>※6</sup>を開催するなど、身近な地域における生涯学習の取組も進んでいます。

※4 特技や知識をもった市民自らが講師となり、りぶらで行われる市民同士が学びあう講座。

※5 学習機会のきっかけづくりとして市民センターで行われる、初心者を対象とした市主催の講座。

※6 現代的な課題や生活のための課題を短期間で効果的に学ぶため、市民センター等で行われる市主催の講座。

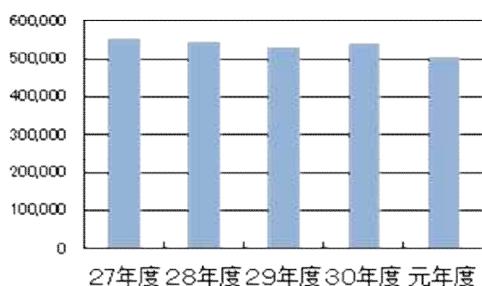
(2) 主な問題点

第2次岡崎市生涯学習推進計画を進めるなかで、積み残しになっている点や、新たに見えてきた問題点などを整理します。

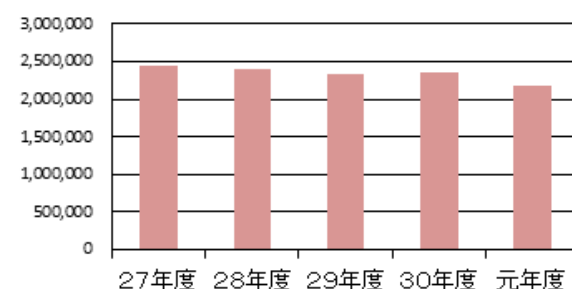
【①受講者数や図書貸出人数の減少】

- ・大学などの高等教育機関や民間のカルチャーセンターなどにおける文化講座など、学びの機会や手段が多様化し、市が主催する定期講座や市民講座の受講者数や講座開催数はやや減少傾向にあります。
- ・若者の読書離れやインターネットの普及などにより、市全体の図書館での図書の貸出人数や貸出冊数はいずれも減少傾向にあります。

(貸出人数) 貸出人数の推移(全館)



(貸出冊数) 貸出冊数の推移(全館)



【②講座内容の重複・わかりにくさ】

- ・市民の学習ニーズや社会課題などに対応した多種多様なテーマの講座が増えている一方で、類似の講座が多く、違いがわかりにくいことから、受講者数の伸び悩みに影響を与えています。
- ・市の関係各課が行う講座情報が集約されておらず、参加を希望する市民や関係者にも十分に共有されていません。

【③新たな参加者や担い手の不足】

- ・積極的に生涯学習活動をしている人とそうでない人が二極化し、現在は活動していない人のうち、今後の生涯学習への参加意向は約4割と低い水準にとどまっています。
- ・定期講座の募集機会が年1回に限られているために、参加経験がない市民にとっては、参加の機会（入口、きっかけ）が不十分な状況にあります。

**【④施設の老朽化、関連施設の連携不足など】**

- ・急激な人口増加や行政ニーズに対応するために整備された公共施設の老朽化が進み、地域の生涯学習拠点である市民センターにおいても改修を行う必要があります。
- ・事業者などとの連携が進んでおらず、民間施設の有効活用を検討していく必要があります。
- ・民間事業者などが有するノウハウを活用した施設運営の効率化、事業の質の向上などが求められます。



矢作市民センター

**【⑤情報が入手しにくい】**

- ・市民の情報収集のツールが多様化し、それに応じて市の情報発信手段も増加しているものの、生涯学習に関する情報を一元的に集約していないため、欲しい情報が見つげにくくなっています。

**【⑥社会参加につながる講座や仕組みが不足】**

- ・全体的に、趣味や自己実現のための講座が充実しており、そうした講座へ人気が集まっています。一方で、環境や防災などの社会問題を扱う講座や、地域の課題解決のための講座の数は比較的少なく、参加者が集まりにくい状況もみられます。
- ・個人の学習の成果を社会や地域に還元するために、参加、体験の機会を提供したり、必要としている地域や団体と人材を結びつけるといったコーディネーターの機能が求められますが、その仕組みや担い手が十分ではありません。

### 3 市民ニーズや活動状況（市民意識調査）

第3次岡崎市生涯学習推進計画策定にあたり、市民3,000人を対象にしてアンケート調査を行い、現在の生涯学習活動の状況や今後のニーズなどを把握するとともに、各図書館、各市民センターにある地域図書室の利用者3,000人にも図書館の利用状況や今後の要望などをお聞きしました。ここで、結果のポイントを整理します。

※図中の構成比(%)は、複数回答、単数回答ともに、少数点第2位を四捨五入しているため、図中の構成比(%)を合計しても、必ずしも100.0%にならないことがあります。

市民アンケート	配布数 3,000 通	回収 1,137 通	回収率 37.9%
図書館アンケート	配布数 3,000 通	回収 1,681 通	回収率 56.0%

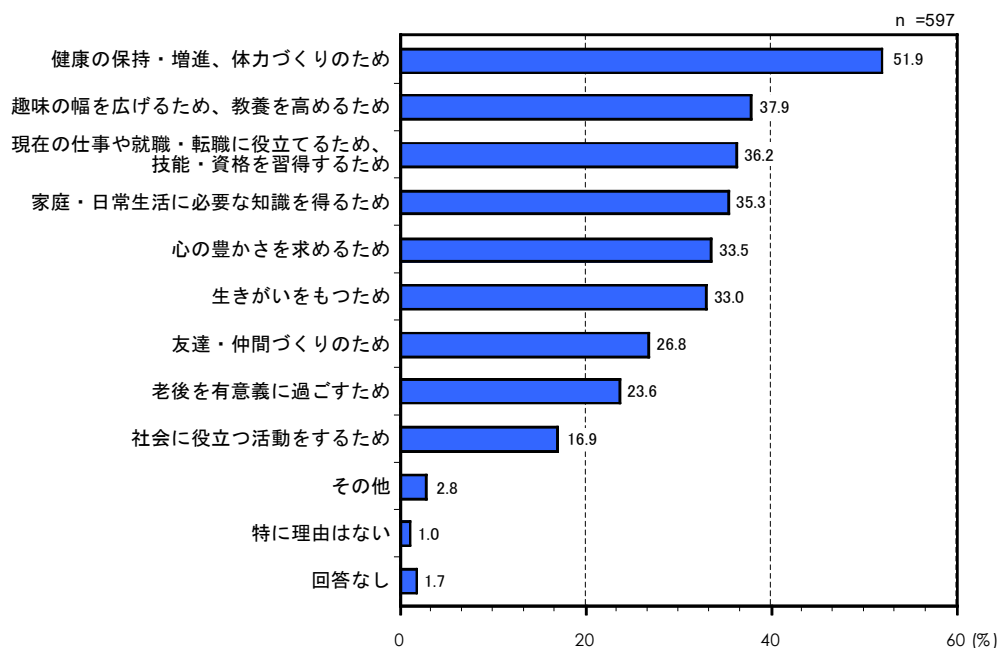
#### (1) 生涯学習の取組状況

##### ①生涯学習の方法が多様化しています。

生涯学習を推進するための方法については、様々な方法を用いて多様化している状況が明らかになるなかで、「公的施設での教室・講座・講演会」(約1割)や「紙媒体の図書・新聞などで行う学習」(約1割)など昔からの方法で学ばれている方がいるが、若い年代では「ユーチューブで行う学習」(約2割)が増えています。しかしその一方で、「現在、生涯学習活動をしていない」が4割強となっています。

##### ②健康の保持・増進などが生涯学習の目的となっています。

生涯学習活動を行う目的をみると、生涯学習活動を行っている市民のうち、「健康の保持・増進、体力づくりのため」(約5割)が多くなっているほか、「趣味の幅を広げるため、教養を高めるため」、「心の豊かさを求めるため」、「生きがいをもつため」といった回答がそれぞれ3割以上となっており、人生をより豊かにしたいという意向が見られます。



③健康やスポーツに関する学習内容が多くなっています。

市民が取り組んでいる生涯学習の具体的な内容を見ると、生涯学習活動を行っている市民のうち、「健康・スポーツ」が最も多く6割弱に達しています。次いで、「職業上必要な知識・技能」（4割弱）と続いており、多岐にわたっています。

また、生涯学習に取り組む時間帯は、平日は「朝」または「昼」が最も多く、休日（土日・祝日）は「昼」が最も多くなっています。

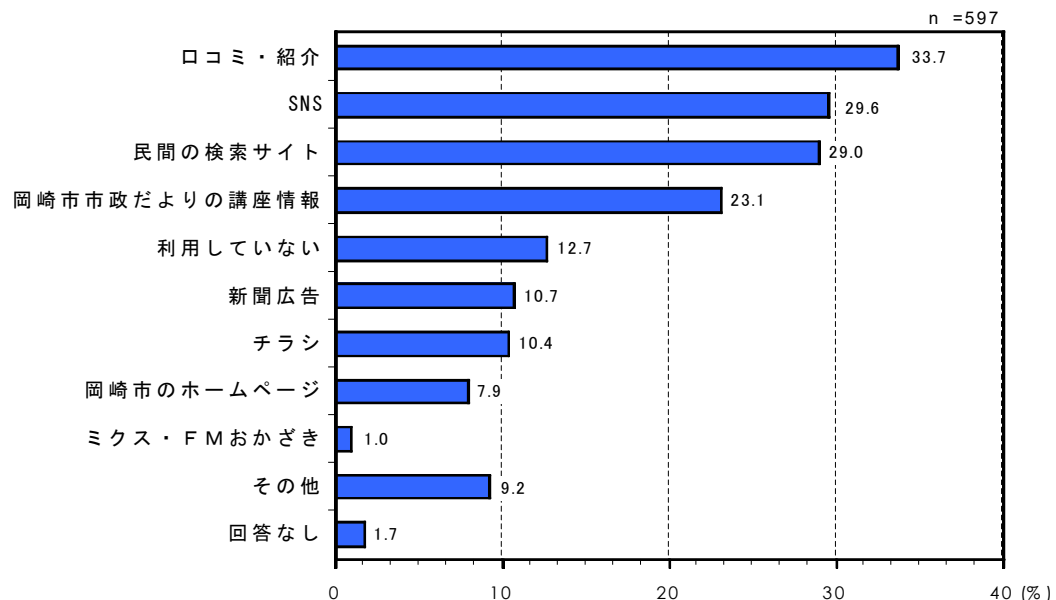
その他、活動場所については、自宅が最も多く、次いで市内の公共施設などが多く使用されています。

市民のライフスタイルの多様化により、要望は多岐にわたっています。そのため、全ての人が取り組むことができるように、多様なメニューの提供方法を考える必要があります。

④口コミやSNS、民間の検索サイトの利用が主な情報収集手段となっています。

多様化する情報収集手段のなかで、「口コミ」や「SNS」、「民間の検索サイト」の利用（それぞれ約3割）が最も高く、次いで「岡崎市市政だよりの講座情報」（約2割）となっています。

今後、新技術の活用も含めて世代に対応した手段を効果的に選択し、組み合わせることでより効果的な情報提供ができるのではないかと考えられます。



(2) 今後の学習意向

①今後取り組みたい学習内容は健康やスポーツに関する内容が多くなっています。

今後行いたい生涯学習の具体的な内容を見ると、「生涯学習を行いたい、行う必要がある」と回答した市民のうち、「健康・スポーツ」が最も多く7割に達しています。次いで、「趣味的な活動」(約4割)、「職業上必要な知識・技能」(約4割)と続いており、多岐にわたっています。一方で、「国際理解や国際交流等」に関する意向は低くとどまっています。

また、行いたいと考える理由を尋ねると、現状と同様に「健康の保持・増進、体力づくりのため」(7割弱)や「心の豊かさを求めるため」(5割弱)、「生きがいをもつため」(5割弱)、「趣味の幅を広げるため・教養を高めるため」(5割弱)、「老後を有意義に過ごすため」(約4割)が多くなっており生涯学習を行う目的と同じように、より人生を豊かにしたいと考えていることがわかります。

市民が取り組んでいる生涯学習と比較すると、健康・スポーツ、家庭生活に役立つ技能、語学、国際理解や国際交流、趣味的な活動などは一層充実させたいという意向がみられます。

②今後取り組む必要がある学習内容は多岐にわたっています。

今後行う必要がある生涯学習の具体的な内容を見ると、やはり「健康・スポーツ」(約7割)や「職業上必要な知識・技能」(約3割)が多くなっていますが、内容については多岐にわたっています。一方で、「国際理解や国際交流等」に関する意向は低くとどまっています。

行う必要があると考える理由を尋ねると、同様に「健康の保持・増進、体力づくりのため」(約6割)が最も多く、「生きがいをもつため」、「老後を有意義に過ごすため」、「心の豊かさを求めるため」(それぞれ約4割)が多くなっています。

市民が取り組んでいる生涯学習と比較すると、「健康・スポーツ」、「家庭生活に役立つ技能、語学」などは必要性が高まっています。さらに、「ボランティア活動に必要な知識・技能」、「社会問題に関する学習等」、「国際理解や国際交流等」など、社会参加に関する内容についても全般的に少しずつ必要性が高まっていることがわかります。

(3) 地域での課題や今後の生涯学習活動への関わり方

①4割弱の市民は、自分が住む地域に特に課題はないと感じています。

地域が抱えている問題や不安については、「特に課題はない」と感じている市民が4割弱と多くいる一方で、「安全や住みやすさ」(3割)や「高齢者・障がい者の生活支援」(3割弱)などに対して不安を持つ回答が多く見られました。

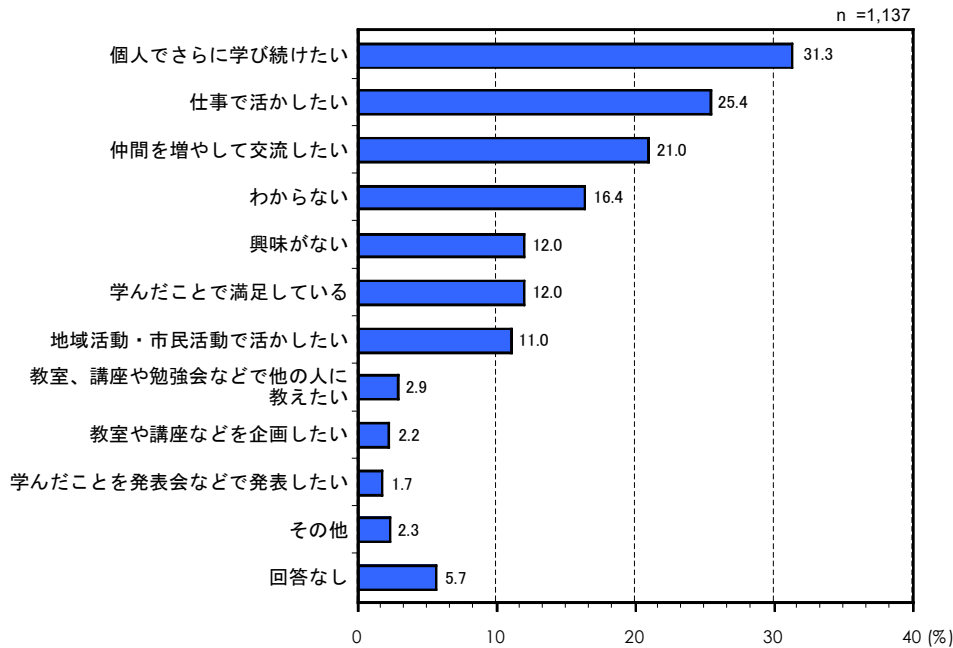
②情報やきっかけ不足などにより、地域課題の解決に参加する市民は2割にとどまります。

上記の問題や不安を解消するために地域活動や講座に参加したかどうかについては、「課題や不安がある」と回答した市民のうち、約8割が活動に参加しておらず、参加していない理由については、「きっかけがない」(約5割弱)、「情報がない」(約4割)が多くなっています。そのため今後課題解決のための情報提供や講座の提供が求められます。



③個人の活動に活かすために今後も学び続けたいと考える市民が多くいます。

今後の生涯学習活動への関わり方については、約3割が「個人でさらに学び続けたい」、3割弱が「仕事で活かしたい」と個人での活動に活かしていきたいと考える市民が多くいる一方で、「仲間を増やして交流したい」と考える回答も約2割ありました。



(4) 図書館の利用状況や今後期待する役割

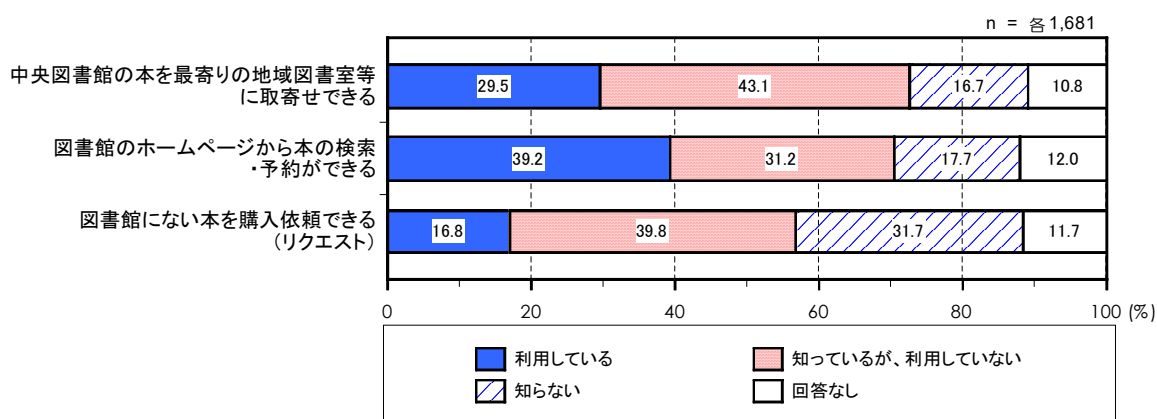
①市民に本や施設を利用してもらえるような取組が求められます。

中央図書館利用者が各市民センターにある地域図書室を利用しない理由及び地域図書室利用者が図書館を利用しない理由については、「最寄りの図書館、図書室ではないから」の回答が約半数を占めています。一方で、市民アンケートでは、「本を読まないから」、「必要な本は買っているから」が約8割弱となっているため、図書館や地域図書室の設備の充実などにより市民に本や施設を利用してもらえるような取組が求められます。

② 図書館や各市民センターにある地域図書室のサービスの認知度は高いものの利用は少ない状況です。

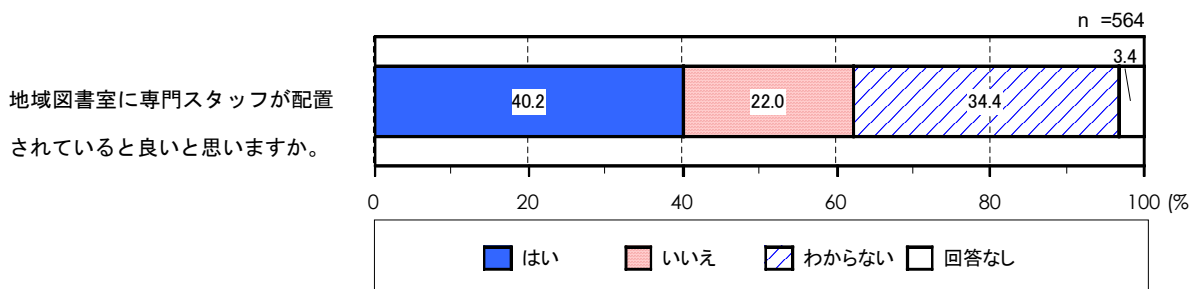
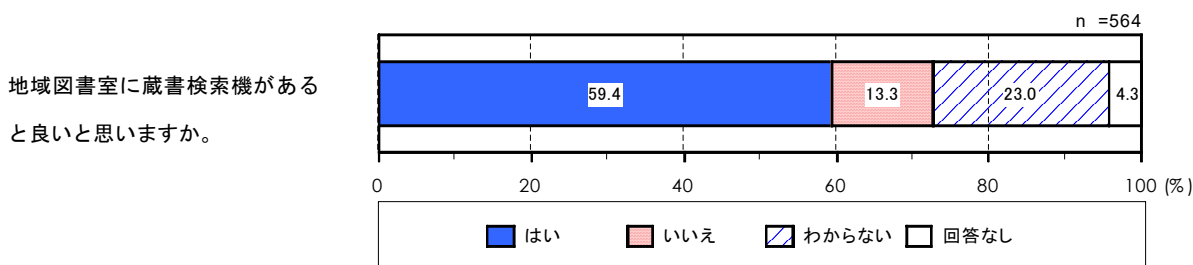
図書館や各市民センターにある地域図書室のサービス利用状況を見てみると、いずれも「知っているが、利用していない」、「知らない」の回答が約5割以上となっています。また、市民アンケートの回答でも中央図書館のサービス利用状況を尋ねてみると、「知っているが、利用していない」、「知らない」の回答が約8割以上となっています。

そのため今後は、SNSなどを活用したサービスや利用方法の情報提供方法の強化が求められます。



③ 図書館や各市民センターにある地域図書室の現状のサービスについて約半数は満足しています。

利用者アンケートで「中央図書館に充実して欲しい、もしくは今後期待するサービス」を尋ねると、「現状のサービスに満足している」が約半数を占める一方で、各市民センターにある地域図書室に蔵書検索機の設置や専門スタッフの配置など機能充実を求める声も多くありました。(約5割)



## 4 岡崎市の生涯学習の主要課題

### (1) ライフスタイルや市民ニーズに対応した講座の充実

誰もが気軽に学びのきっかけをつかみ学習活動を実践するとともに、市民が講師となり市民同士が学びあうようなスタイルの講座の充実が求められます。また、市民活動団体が主体となって運営を行っている「りぶら講座」を市民センターでも開催できるよう検討するなど、多種多様な受講者ニーズに対応する必要があります。さらに、市、市民（個人・市民活動団体）、高等教育機関、民間事業者など、多様な主体との協働による生涯学習の推進が課題となっています。

### (2) 身近な学習環境・機会の充実

民間のノウハウを活用した運営方法の充実とともに、各市民センターにある地域図書室の充実など、地域課題解決にも資する身近な生涯学習活動拠点の充実が必要です。

さらに、新しい生活様式に対応し、デジタルコンテンツの充実やオンライン講座などICTを活用した新たな情報提供や学習機会の充実が求められます。

### (3) 新たな参加者・担い手の発掘・育成

受講生の高齢化、固定化などにより生涯学習講座への参加者数が減少傾向にあることから、今まで参加したことがない方が参加したくなるような魅力的な講座やイベントなどの学習機会の提供や学びやすい環境づくりが課題です。

また、定期講座などの申込の時期や方法、開催場所などを柔軟に見直し、新しく学習を始めた市民がきっかけを得て、いつでも身近な地域で始めることができるような仕組みづくりが求められます。

### (4) 効果的な学習情報の提供と相談体制の充実

様々な施設を使って幅広いテーマで開催されている生涯学習に関する講座やイベントは、情報の把握が難しいことから、生涯学習に関する情報を収集、整理して、多様な方法で市民に分かりやすく提供するとともに、生涯学習に取り組む市民の相談に対応し、安心して楽しく生涯学習活動が行われるように支援することが課題です。

### (5) 学習成果の社会還元、地域活動への参加促進

地域について学び理解を深め、文化の継承、発展や誇りと愛着の醸成を図るとともに、住民の相互学習や交流を通して地域力の向上を進め、住みやすい地域づくりにつながるような生涯学習を各地域の地域学習拠点で充実することが必要です。

さらに、豊かな社会、地域をつくるために、生涯学習活動で学んだ知識や技能を活かして、地域の様々な課題の解決に取り組むなど、学習成果の還元、循環が求められます。

### (6) 多様な主体との協働による生涯学習体制の充実

市、市民（個人・市民活動団体）、民間事業者など、多様な主体との協働により生涯学習体制の充実を図ることが必要です。

多様化する学習ニーズに対応したサービスを提供して市民の学習活動が効果的に行われるように、市民活動団体との協働を促進するとともに、大学などの高等教育機関や民間事業者、近隣市町、愛知県などの多様な主体との連携強化を図ります。

## 第3章 基本構想

### 1 基本理念

本市では、第1次計画において、「岡崎 21 世紀プラン」を踏まえ、生涯学習推進のための基本理念『人が輝き 誰もが学び続ける 文化都市 岡崎』を設定しました。

第2次計画においても、この第1次計画の基本理念を継承しつつ、生涯学習拠点であるりぶらを中心に、図書館や市内大学などと連携を図りながら、多様な生涯学習のサービスを提供してきました。

一方で、上位計画となる第7次岡崎市総合計画総合政策指針（令和 32（2050）年度目標）では、将来像及び分野別指針を下記のように定めています。

#### 第7次岡崎市総合計画総合政策指針

【将来都市像】「一步先の暮らしで三河を拓く 中枢・中核都市おかざき」

【分野別指針】※生涯学習関連を抜粋

誰もが学び活躍できる社会づくり

分析結果や課題を踏まえて、第3次計画の基本理念を次のとおり定めます。

#### 第3次岡崎市生涯学習推進計画 基本理念

## だれもが学び いきがいを持てる 生涯活躍のまち 岡崎

市民一人一人が生涯を通じていきいきと学び続け、  
豊かでいきがいのある暮らしをおくるとともに、  
学びを地域社会に還元しつつ自分らしく活躍できる  
そんな誇り高い歴史文化とともに豊かに暮らせるまちを目指します



### 2 基本方針

基本理念である「だれもが学び いきがいを持てる 生涯活躍のまち 岡崎」を実現するために以下の基本方針を設定しました。これら4つの基本方針に基づき生涯学習施策を推進し、市民の誰もが、いきいきと学び続けることができる環境を築いていきます。

また、自己実現のための学習活動にとどまらず、学んだ成果を他の人に分かち伝える、身近な地域活動に活かすなど、地域社会の一員として公益的な活動に社会還元することで、より深いいきがいや喜びを感じられ、よりよい地域づくりにつながるような取組を推進します。

#### 基本方針1 いつでも（とき）

誰もが生涯にわたって、いつでも、いつからでも、学びたいときに、必要とするときに学ぶことができるように、ライフステージに応じた様々な学びを提供します。

また、デジタルコンテンツによる学習スタイルの提供やICTの活用による電子図書館のサービスなどにより、家事や育児、仕事などで忙しくて学習する時間が持ちにくい市民も、自分の望む自由な時間に気軽に学ぶことができるようなサービスの充実を図ります。

#### 基本方針2 どこでも（ばしょ）

学校や家庭、地域などあらゆる場所で学ぶことができるように、中核施設であるりぶらほもとより、市民センターなど、地域拠点施設の活用を図ります。さらに民間施設や高等教育機関などとも連携し、様々な学習機会や情報の提供、施設のネットワーク化などを進め、身近な場所でどこでも気軽に生涯学習活動を行うことができるようにします。さらに、ICTを活用したオンラインサービスの充実などにより、場所を選ばず好きなところで安心して学習できるような取組の充実を図ります。

#### 基本方針3 だれでも（ひと）

性別や年齢、国籍、障がいの有無、住んでいる地域に関わらず、全ての人が制約を受けず、多様な文化が共生できるように配慮した取組を進めます。また、学習活動や多様な人々との出会いと交流により、学ぶ楽しみを感じ、自分らしく地域社会に参加できるような学習支援などを進めます。

#### 基本方針4 なんでも（こと）

一人一人の市民が、自らの意志や目的に応じて自由に学び活動できるように、社会情勢や高度化する学習ニーズを的確に把握し、多様な学習内容や学習機会、情報の提供を行います。

### 3 成果指標

本計画の達成度を測る成果指標として、以下の目標を設定します。

**【令和12（2030）年度】**  
**生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合 70%**

※本市の生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合は、令和2（2020）年は58.6%です。  
（計画策定に伴う市民意識調査結果より）

## 第4章 基本計画

### 1 重点施策一覧

生涯学習施策を計画的に推進するため、5つの基本的な施策を展開するとともに、本計画期間の重点施策は以下のとおりとします。

#### 施策1

#### 多様な学習・交流機会の提供

- ◆すべての人が学びやすい学習機会の充実  
**〈重点施策〉 障がいのある方への学習支援**  
障がい者スポーツやバリアフリー資料の設置など、障がいのある方が多様な学習活動ができるように支援する。
- ◆生涯学習を通じた交流  
**〈重点施策〉 学びを通じた交流促進**  
新たな出会いと交流を促進する事業の充実を図る。

#### 施策2

#### 市民が利用する学習施設の充実

- ◆「知の拠点」としての図書館の充実  
**〈重点施策〉 中枢としての中央図書館の機能強化**  
市内図書館サービス全体の総合的な管理及び連携・調整、市外図書館との連携を図る。
- ◆ICTを活用した多様な学習機会の提供  
**〈重点施策〉 デジタルコンテンツ等による多様な学習スタイルの提供**  
動画配信を活用するなど多様な学習形態の充実を図る。

#### 施策3

#### 情報提供・相談支援の充実

- ◆情報提供・広報の充実  
**〈重点施策〉 生涯学習に関する多様な情報の集約・整理・提供**  
生涯学習に関する情報を一元化し、分かりやすく提供する。

#### 施策4

#### 地域における生涯学習の推進

- ◆地域に関する情報提供・学習の推進  
**〈重点施策〉 地域と連携した情報提供や学習の充実**  
関係機関との連携を通じて、学習機会や交流の充実を図り、地域課題解決に向けた情報提供や参加促進の取組を推進する。

#### 施策5

#### 生涯学習を支援する人材の育成・推進体制づくり

- ◆関係機関との連携による推進体制の充実  
**〈重点施策〉 市民活動団体等の学習ボランティアの支援及び連携強化**  
生涯学習事業を行う市民活動団体などの支援をするとともに、連携を図り、事業を推進する。

2 具体的な施策

施策		個別施策
1	多様な学習・交流機会の提供	1 ライフスタイルに沿った生涯学習の充実 ①文化芸術に関する活動の充実 ②スポーツ・レクリエーション、健康づくりの充実 ③家庭・地域の教育力の向上 ④社会的課題に対応した学習機会の充実
		2 市民のライフステージに応じた学習支援 ①乳幼児・学童期の学習支援 ②青少年期の学習支援 ③成人期の学習支援 ④高齢期の学習支援
		3 すべての人が学びやすい学習機会の充実 ①障がいのある方への学習支援 <b>【重点施策】</b> ②外国人市民の生涯学習の推進
		4 生涯学習を通じた交流 ①学びを通じた交流促進 <b>【重点施策】</b> ②まちなかでの学びの推進
2	市民が利用する学習施設の充実	1 生涯学習関連施設の充実 ①生涯学習関連施設の利用環境の充実 ②民間施設との連携促進、活用
		2 「知の拠点」としての図書館の充実 ①中枢としての中央図書館の機能強化 <b>【重点施策】</b>
		3 ICTを活用した多様な学習機会の提供 ①デジタルコンテンツ等による多様な学習スタイルの提供 <b>【重点施策】</b> ②電子図書館の推進
3	情報提供・相談支援の充実	1 情報提供・広報の充実 ①市民の学習ニーズや課題の的確な把握 <b>【重点施策】</b> ②生涯学習に関する多様な情報の集約・整理・提供 ③生涯学習講座等の募集方法の見直し
		2 学習相談・支援の充実 ①相談窓口機能の充実 ②レファレンスサービス（調べものの支援）の充実
4	地域における生涯学習の推進	1 地域に関する情報提供・学習の推進 ①地域の歴史文化や特性をテーマとした学習の推進 ②地域と連携した情報提供や学習の充実 <b>【重点施策】</b>
		2 地域学習拠点の充実 ①地域学習拠点の充実 ②額田図書館、各市民センターにある地域図書室の機能強化
		3 地域づくりを担う人づくり ①市民活動支援機関との連携 ②学習成果発表の場の提供



施策		個別施策	
5	生涯学習を支援する人材の育成・推進体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①市民活動団体等の学習ボランティアの支援及び連携強化 <b>【重点施策】</b></li> <li>②図書館ボランティア等とのパートナーシップ</li> <li>③市内大学など高等教育機関との連携促進</li> <li>④民間施設との連携促進</li> <li>⑤地域との連携による地域学校協働活動の推進</li> </ul>	
	1 関係機関との連携による推進体制の充実		
	2 生涯学習を支援する人材の育成等	①生涯学習を支援する人材の発掘・育成	
	3 効率的で質の高いサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実施事業の検証</li> <li>②職員研修の充実</li> <li>③民間活力の導入検討</li> </ul>	
(別掲)	図書館に関する施策一覧	1 生涯学習を支援する図書館サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①レファレンスサービス（調べものの支援）の充実</li> <li>②児童サービスの充実</li> <li>③多様な利用者に対応したサービスの充実</li> <li>④バリアフリーサービスの充実</li> <li>⑤多文化共生社会に対応した多文化サービスの充実</li> <li>⑥電子図書館の推進</li> <li>⑦市民の交流の場としての役割の拡充</li> <li>⑧快適な図書館生活を通じた賑わいづくり</li> </ul>
		2 情報拠点機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTの活用による図書館サービスの向上</li> <li>②情報格差の解消</li> <li>③ビジネス支援・就職支援</li> <li>④行政情報等暮らしの課題解決に必要な情報の提供</li> </ul>
		3 地域の文化創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ふるさとの情報収集・保存・提供</li> <li>②地域文化の創造の場としての機能の充実</li> <li>③図書館ボランティア等とのパートナーシップ</li> </ul>
		4 質の高い図書館運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中枢としての中央図書館の機能強化</li> <li>②額田図書館、各市民センターにある地域図書室の機能強化</li> <li>③専門スタッフの確保及び育成</li> </ul>

施策1

多様な学習・交流機会の提供

1 ライフスタイルに沿った生涯学習の充実

社会環境の変化により、ライフスタイル、価値観、市民の学習ニーズ、地域の課題などの複雑化、多様化が進んでいます。

一人一人の市民が、学習活動を通じて、住み慣れた地域で心身ともに健康で心豊かに暮らし続けることができるように、市民活動団体などと連携し、市民ニーズや社会状況を踏まえた多様な学習、交流の機会を提供するなど、市民の知的活動や創造的文化活動を支援します。

個別施策	説明
①文化芸術に関する活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が文化、芸術に親しみ、個性や創造性を育むことができるよう、講座やイベント、発表機会などの充実により市民の自主的な文化、芸術活動を支援します。また、音楽、演劇の講演、美術展などを通して、多くの市民が文化、芸術に触れる機会の提供に努めます。</li> <li>・世界有数の「内田修ジャズコレクション」を核とし、市民と共に「ジャズの街岡崎」としての文化活動を展開することで、市民のジャズに対する関心を高めるとともに、音楽文化の交流を図ります。</li> </ul>
②スポーツ・レクリエーション、健康づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ・レクリエーション、健康づくりを通じて市民の体力向上と健康増進に努め、健康で明るい市民生活の発展に寄与するとともに、スポーツを活かした地域社会づくりを推進します。</li> <li>・市民一人一人のライフステージやライフスタイルにあわせた多様なスポーツプログラムを提供していくことで、みんなが気軽に参加できる、そして簡単に実施できる生涯スポーツの普及を推進します。</li> </ul>
③家庭・地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティの変化など、子どもたちを取り巻く環境が変化するなか、家庭や地域の教育力を高めるために、親への学びの機会を充実するとともに、地域と連携した悩みを持つ家庭へのサポートや地域活動を推進します。</li> </ul>
④社会的課題に対応した学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画、多文化共生、環境、防災、デジタル化などの様々な社会問題や地域課題の解決に向けて、市民や地域が主体となった取組が求められることから、現代的、社会的課題への対応を図るための講座を充実するなど、市民の学習機会や意識啓発の充実に努めます。</li> </ul>

## 2 市民のライフステージに応じた学習支援

人々の成長過程における生涯学習との関わりは、家庭生活から学校生活、さらに社会生活と続く中で、ライフステージに応じた様々な学びが必要となります。生涯にわたって学習活動を継続し、いきがいのある充実した人生を送るため、市民センターや学区市民ホームなど身近な施設を活用し、市民一人一人の学習意欲を喚起するとともに、成長過程に応じ学習方法やテーマ・内容などを検討し学習機会の充実を図ります。

個別施策	説明
①乳幼児・学童期の学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で楽しむことができるコンサート事業や学校との連携など、様々なことに対する、子どもの興味、関心を高める事業の充実に努めます。</li> </ul>
②青少年期の学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座などへの参加が少ない若い世代に対して社会性や公共性、さらに地域への愛着を身につけることができるように、学習、交流機会の充実に努めます。</li> </ul>
③成人期の学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活の充実や生活と向き合うような講座などの開催、さらにボランティア活動などの社会参加や地域活動、仲間、居場所づくりなどを想定した人材育成や交流の機会を提供します。</li> <li>・大学や産業支援機関などと連携し自己実現や職業能力の向上などに必要な知識、技能、教養を身につける学び直しの機会を提供します。</li> </ul>
④高齢期の学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が生涯学習を楽しみ、いきがいをもって健康で活力ある暮らしを送ることができるように、身近な施設において健康づくりなど多様な講座を実施するとともに、気軽に社会参加できる機会を提供します。</li> </ul>

### 3 すべての人が学びやすい学習機会の充実

障がいのある人々、外国人市民などの様々な社会的背景を持つ人々が、多様な学習活動を行えるようにするためには、学習環境の整備や機会の充実、さらにボランティアなどのサポート体制が必要です。

このため、すべての人が学びやすい学習機会を得られるよう、参加促進やボランティアの養成などを支援し、学習機会の提供や交流活動を推進します。

個別施策	説明
<p>①障がいのある方への学習支援 【重点施策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関、団体などと連携し、身近なところで親しめる障がい者スポーツの普及を図り、障がいのある方と健常者が一緒にスポーツできる場づくりを進めます。</li> <li>・市民に対して手話や聴覚障がいのある方の生活について学ぶ機会を提供するとともに、手話通訳者、要約筆記者を養成する学習機会を提供します。</li> <li>・障がいのある市民にも図書館利用の楽しみを知ってもらえるよう、点字図書などのバリアフリー資料やサービス機器の設置などの配慮を行い、利用しやすい図書館サービスを提供します。</li> </ul>
<p>②外国人市民の生涯学習の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人市民も同様に生涯学習を通じて豊かで快適な暮らしを送ることができるように、日本語学習を支援し、生活課題やニーズに対応した学習機会や情報の提供に努めます。</li> <li>・外国人市民と日本人市民が相互理解を深めることができるように、それぞれの文化などを学びあう学習機会を提供します。</li> </ul>

#### 4 生涯学習を通じた交流

核家族化の進行、外国人世帯の増加やライフスタイルの多様化により、家庭や地域で世代や立場の異なる人とふれあう機会が減少し、地域文化の継承やコミュニティの希薄化など様々な影響がみられることから、学びや体験を介した世代間や多文化交流を促すとともに、それらを活かしてまちなかでの学びに役立てます。

個別施策	説明
①学びを通じた交流促進 【重点施策】	・生涯学習を通じて人と人が出会い、地域や世代間、多文化交流など様々なつながりが生まれ相互理解が深まるように、新たな出会いと交流を促すような講座やりぶらなどで開催する交流事業の充実を図ります。
②まちなかでの学びの推進	・まちなかの商店や交流スペースを活用しながら、地域の商店主や事業者から専門的な知識や情報を学ぶことを支援し、まちへの愛着や関心、交流機会の充実に努めます。

施策2

市民が利用する学習施設の充実

1 生涯学習関連施設の充実

市民ニーズに応じた多様な学習や交流の機会を提供し、市民の生涯学習活動が活発になるように、りぶらを核とした生涯学習関連施設が、地域住民にとってよりわかりやすく親しみやすい学習拠点、活動拠点、交流拠点となるように、市民、民間事業者などとの連携を通じて、市民が学習しやすい施設・設備を充実します。

個別施策	説明
①生涯学習関連施設の利用環境の充実	・りぶらをはじめ、図書館、市民センターなどの各種生涯学習関連施設が、学習や交流の場として市民に積極的に利用されるように、必要に応じた設備、機器の更新などによる利用環境の充実や機能の向上に努めます。
②民間施設との連携促進、活用	・市民の学習ニーズに対応するため、専門的な学習コンテンツの提供だけでなく、民間施設との連携を促進します。

2 「知の拠点」としての図書館の充実（※「別掲 図書館に関する施策一覧」参照）

生涯学習の情報拠点となる中央図書館を核として、市民の知的好奇心を刺激し、知る楽しみ、学ぶ喜びを支えるだけでなく、額田図書館や各市民センターにある地域図書室の機能を強化して、学習の課題解決などに役立つ資料を幅広く収集、提供します。また、様々な条件により図書館利用に障がいのある方たちの読書環境に配慮するなど、図書館機能の整備、充実を図り、サービスを推進します。

個別施策	説明
①中枢としての中央図書館の機能強化 【重点施策】	・中央図書館は、図書館サービスの中核機関として、「収集」「保存」「利用」のあらゆる面で高いレベルを備え、額田図書館や各市民センターにある地域図書室などの図書館サービス全体の総合的な管理、連携、調整、市外の図書館との連携を図ります。

### 3 ICTを活用した多様な学習機会の提供

インターネットが急速に普及し、パソコンやスマートフォン、タブレットPCなど、様々なICT機器を利用した生涯学習活動が行われています。また、近年では、動画による教材を活用した講座が普及してきています。今後は、高齢者や障がいのある方などの情報格差（デジタルデバイド）に配慮しつつ、市民が安心かつ気軽に学習できるように、様々な学習形態のメリットを活かした多様な学習機会や情報の提供に努めます。

個別施策	説明
①デジタルコンテンツ等による多様な学習スタイルの提供 <b>【重点施策】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、動画配信などを活用した在宅でのリモート学習など、これまで以上にデジタルコンテンツを充実し、多様な学習形態の充実を図ります。</li> </ul>
②電子図書館の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の紙による書籍ではなく、デジタルデータで作成される出版物である電子書籍をインターネット経由で紙の書籍と同じように、検索、貸出、閲覧できる「電子書籍貸出サービス」を行う電子図書館の実施を進めます。</li> </ul>

施策3

情報提供・相談支援の充実

1 情報提供・広報の充実

生涯学習に関する講座やイベントは、りぶらや各市民センターなど様々な施設で、文化芸術、スポーツ、福祉、環境、多文化共生などの幅広いテーマで開催されています。その情報を収集、整理して、ホームページなどで市民に分かりやすく提供していきます。

個別施策	説明
<p>①市民の学習ニーズや課題の的確な把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の窓口寄せられる生涯学習に関する問合せや相談事項を整理するとともに、市民意識調査や講座受講後の満足度調査といった、各種アンケート調査なども行い、市民の学習ニーズの把握に努めます。</li> </ul>
<p>②生涯学習に関する多様な情報の集約・整理・提供 【重点施策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、市や市民活動団体、高等教育機関などが取り組む様々な分野の講座、講演会やイベントなどの情報は、市政だよりをはじめ、庁内各課や市生涯学習情報のホームページなどで紹介されていることから、こうした多様な情報を集約、整理し、SNSなど多様な方法を組み合わせて効果的に情報提供を行います。</li> <li>外国人市民の生活支援のために、各種文書や媒体の多言語化、やさしい日本語の普及など、伝わりやすい情報提供を進めます。</li> <li>愛知県や県内市町村、高等教育機関などが有する生涯学習に関する情報を一元的に提供するシステム「学びネットあいち」と連携し、情報提供機能の向上を図っていきます。</li> </ul>
<p>③生涯学習講座等の募集方法の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座やイベントの募集方法を柔軟に見直すとともに、参加したことがない市民も講座内容を体験できる機会を提供するなど、誰もが気軽に生涯学習に取り組むことができるような仕組みづくりを進めます。</li> </ul>



## 2 学習相談・支援の充実

生涯学習に取り組む市民に、必要としている情報を入手しやすく提供するとともに、活動するうえでの悩みや疑問などの相談に対応し、一人一人の市民にあった生涯学習活動が行われるように支援します。

個別施策	説明
①相談窓口機能の充実	・市、市民活動団体、民間事業者などが行う講座等の情報を集約し、生涯学習に取り組む市民からの相談に対応できる窓口機能の充実を図ります。
②レファレンスサービス（調べものの支援）の充実	・市民が生涯学習活動をさらに広く、さらに深く行うことが容易になるよう、レファレンスサービスを貸出と並ぶ中核的な業務の1つとして位置づけ、サービスの周知と充実を図ります。

施策4

地域における生涯学習の推進

1 地域に関する情報提供・学習の推進

地域を学ぶ機会を充実することにより、郷土に対する誇りと愛着を育むとともに、地域全体で学び合って地域力を向上し、住み良い地域社会の構築につながるような生涯学習に各地域で取り組んでいきます。

個別施策	説明
<p>①地域の歴史文化や特性をテーマとした学習の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土の地域資源を学び親しむことにより、ふるさとを身近に感じ、その一員としてのアイデンティティを醸成するよう、図書館による郷土資料の収集、提供や、市民への学習機会の充実を図ります。</li> </ul>
<p>②地域と連携した情報提供や学習の充実 <b>【重点施策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との情報共有を通じて、地域の課題を把握するとともに、ボランティアなど市民の主体的な地域活動が推進できるよう、地域主体の取組について理解を深めるための学習機会や交流する機会の充実を図ります。</li> <li>地域で活動している市民活動団体などと協力して、講座を開催し、地域課題解決に向けた情報提供や参加促進の取組を推進します。</li> </ul>

## 2 地域学習拠点の充実

関係機関との情報共有を通じて、地域の課題を把握するとともに、ボランティアなど市民の主体的な地域活動が推進できるよう、地域主体の取組について理解を深めるための学習機会や交流する機会の充実を図ります。

個別施策	説明
①地域学習拠点の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館、市民センター、学区市民ホームといった地域住民の生涯学習を行う地域拠点において、学習、交流活動の実践の場としての機能の充実を図ります。</li> </ul>
②額田図書館、各市民センターにある地域図書室の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が市民の暮らしに身近な場所となるように、額田図書館、各市民センターにある地域図書室のサービスの充実を図ります。</li> <li>・国が示す「図書館の役割として求められている地域の課題解決支援」に寄与することができるように、図書館業務専任スタッフ、資料の充実など機能を強化します。</li> </ul>

## 3 地域づくりを担う人づくり

豊かな社会、地域をつくるために、生涯学習活動で学んだ知識や技能を活かして、地域の様々な課題の解決に取り組む機会を提供するとともに担い手として育成するなど、市民が学習成果を社会還元、循環するための支援を進めます。

個別施策	説明
①市民活動支援機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に関する情報を有する地域交流センター指定管理者や市内大学などと連携を進めます。</li> </ul>
②学習成果発表の場の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習活動で学んだ知識や技能を、地域において発表できる場を提供します。</li> </ul>

施策5

生涯学習を支援する人材の育成・推進体制づくり

1 関係機関との連携による推進体制の充実

市民の学習活動が効果的に行われるように、市民活動団体との協働を促進するとともに、市内大学や民間事業者、近隣市町村、愛知県などとの連携強化を図ります。

個別施策	説明
①市民活動団体等の学習ボランティアの支援及び連携強化 <b>【重点施策】</b>	・生涯学習講座の運営を市民の立場から支えているりぶらサポータークラブをはじめとする市民活動団体を支援するとともに、連携を図り、各種生涯学習事業を推進していきます。
②図書館ボランティア等とのパートナーシップ	・手話、点字、外国語などの知識、技能を持った市民をはじめ、子どもの読書活動の支援や本の修理など、社会貢献活動に興味を持つ市民などに支援を求め、図書館ボランティアなどとの連携による図書館づくりを進めます。
③市内大学など高等教育機関との連携促進	・多様化する市民の学習ニーズに対応し、地域社会の発展と人材育成に寄与するため、市内大学などの高等教育機関と連携を促進します。
④民間施設との連携促進 <b>【再掲】</b>	・市民の学習ニーズに対応するため、専門的な学習コンテンツの提供だけでなく、民間施設との連携を促進します。
⑤地域との連携による地域学校協働活動の推進	・学区社会教育委員会のネットワークを活かし、地域学校協働活動の推進を図ります。

## 2 生涯学習を支援する人材の育成等

日ごろの学習活動の成果を様々な形で地域に還元するとともに、学習活動を支援する人材の発掘、育成を行います。

個別施策	説明
①生涯学習を支援する人材の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが学んだ学習の成果が他の人々の役に立つことで、やりがいも生まれ、さらなる学習の動機づけになることから、学んだ成果を生かすことができるりぶら講座などを通して、生涯学習を支援する人材を育成するなど学びあいの取組を充実させます。</li> <li>・市民活動団体と連携し、新たな生涯学習を支援する人材を発掘、育成するとともに、市民による自主的な講座の企画、運営を促進します。</li> </ul>

## 3 効率的で質の高いサービスの提供

多様化する学習ニーズに対応してサービスを提供するために、実施事業の検証、職員の能力向上、民間との連携などを通して、地域の課題解決につながる生涯学習を推進します。また、生涯学習拠点施設における民間活力の導入を検討します。

個別施策	説明
①実施事業の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係各課などが行っている生涯学習事業が着実かつ効率的に取り組まれているかを定期的に点検し、効果的な事業を進めていきます。</li> </ul>
②職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市職員を対象とした研修の実施により生涯学習への理解を深めるとともに、市職員が講師となって様々な施策について講義する「出前講座」の内容に反映させます。</li> </ul>
③民間活力の導入検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の経験を活かした学習支援を行うため、生涯学習拠点施設における民間活力の導入を検討します。</li> </ul>

## 別掲

## 図書館に関する施策一覧

前述の施策1～5の施策のなかで、図書館に関連する個別施策を再整理します。さらに、図書館における独自の施策についても合わせて掲載します。

## 1 生涯学習を支援する図書館サービスの充実

生涯学習の必要性が高まるなか、市民の生涯学習活動における図書館の役割はより重要なものになっており、『市民のための図書館』としてサービスの充実を図ります。

個別施策	説明
①レファレンスサービス（調べものの支援）の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が生涯学習活動をさらに広く、さらに深く行うことが容易になるよう、レファレンスサービスを貸出と並ぶ中核的な業務の1つとして位置づけ、サービスの周知と充実を図ります。</li> </ul> （※再掲「基本施策3-2-② レファレンスサービス（調べものの支援）の充実」）
②児童サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読書が楽しいと感じる子どもを育てる」ことを念頭に、子どもが主体的に読書に取り組み、豊かな心を育むとともに、自ら考える力を身に付けられるような環境づくりに努めます。</li> </ul> （※関連「基本施策1-2-① 乳幼児・学童期の学習支援」）
③多様な利用者に対応したサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもからシニアまでの全ての年代の市民にとって、興味深くかつ気軽に利用しやすい図書館の整備及びサービスの充実を図るとともに、高齢者などの生涯学習とその活動も重視した支援を行います。</li> </ul> （※関連「基本施策1-2-①～④ 市民のライフステージに応じた学習支援」）
④バリアフリーサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通の活字が読みづらくなったり、心身にハンディキャップを抱えている方などへ、図書館利用の楽しみを知ってもらい、利用しやすい図書館となるように、点字図書や録音図書（カセットテープ、デージー※7）、布の絵本、拡大読書席、車椅子席、対面朗読室などのサービスを充実します。</li> </ul> （※関連「基本施策1-2-④ 高齢期の学習支援」、 「基本施策1-3-① 障がいのある方への学習支援」）

※岡崎市立中央図書館は、視覚障がいのある方及び視覚による表現の認識に障がいのある方々に対して点字、デージーデータをはじめ、暮らしに密着した地域・生活情報など様々な情報を提供するネットワーク「サピエ」に登録しています。「サピエ」は、日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障がい者情報提供施設協会が運営を行っています。

※7 デイジー図書（DAISY図書）

「Digital Accessible Information System」という規格を用いたデジタル録音図書。見出しから検索して、読みたい部分を読んだり、読み飛ばしたり、一般の本のような読み方ができる。

<p>⑤多文化共生社会に対応した多文化サービスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人市民や本市を訪問する外国人にとっても使いやすいように、多文化、多言語の資料やサービスの提供に努めます。また、海外や姉妹友好都市などに関する資料を収集し、国際理解と多文化交流に寄与します。</li> </ul> <p>(※関連「基本施策1-3-② 外国人市民の生涯学習の推進」)</p>
<p>⑥電子図書館の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来の紙による書籍ではなく、デジタルデータで作成される出版物である電子書籍をインターネット経由で紙の書籍と同じように、検索、貸出、閲覧できる「電子書籍貸出サービス」を行う電子図書館の実施を進めます。</li> </ul> <p>(※再掲「基本施策2-3-② 電子図書館の推進」)</p>
<p>⑦市民の交流の場としての役割の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館は、読書をはじめとする情報サービスを提供する学習活動の場であるとともに、本を介し多様な人々が出会い交流する場としての役割が求められることから、地域の人々の新たなつながりが生まれるような環境やサービスの充実に努めます。</li> </ul> <p>(※関連「基本施策1-4-① 学びを通じた交流促進」)</p>
<p>⑧快適な図書館生活を通じた賑わいづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館や額田図書館、各市民センターにある地域図書室において、長時間にわたり快適にくつろげる環境を提供し、年代や国籍、障がいの有無を問わず、誰もが図書館での時間を楽しめるようにするとともに、多くの市民が集う図書館を核にして、周辺地域のにぎわいづくりを促進します。</li> </ul> <p>(※関連「基本施策1-4-② まちなかでの学びの促進」)</p>

## 2 情報拠点機能の充実

今後、市民生活や地域活動、経済活動などにおいて、ますます需要が高まる情報メディアや電子資料、検索サービスなどのICTを活用した図書館サービスを向上し、『情報拠点としての図書館』の機能を充実します。

個別施策	説明
① ICTの活用による図書館サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブ事業<sup>※8</sup>により、社会の変化に応じた利用者サービスの向上を図ります。</li> <li>・市民ニーズと時代を捉えたICTを導入し、効果的で効率的なサービス提供を図ります。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(※関連「基本施策2-3-① デジタルコンテンツ等による多様な学習スタイルの提供」)</p>
②情報格差の解消	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット、パソコンなどの情報通信技術を使うことが難しい利用者に対しては、市民の情報格差（デジタルデバイド）解消のために従来の施設における対面サービスの充実にも引き続き取り組みます。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(※関連「基本施策2-3-① デジタルコンテンツ等による多様な学習スタイルの提供」、「基本施策2-3-② 電子図書館の推進」)</p>
③ビジネス支援・就職支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商用データベースの活用や産業支援機関など関係機関との連携などにより、創業や起業、社会人の資格取得や就職、キャリアアップのための情報、さらに産業活動に必要な情報を入手できるようにするなどのビジネス支援サービスを充実し、産業人材育成や産業の活性化を側面から支援します。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(※関連「基本施策1-2-③ 成人期の学習支援」)</p>
④行政情報等暮らしの課題解決に必要な情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行政情報や地域情報、日常生活における困りごとや地域課題の解決に役立つ情報など、市民生活や地域活動に必要な情報を的確に把握し、積極的に提供します。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(※関連「基本施策4-1-② 地域と連携した情報提供や学習の充実」)</p>

※8 貴重資料、写真資料などをデジタル情報で記録し保存、提供する事業。



## 3 地域の文化創造

郷土の様々な地域資源を継承するとともに、地域ぐるみで新たな地域文化を創造し、活力のある地域を育てていくために、歴史文化の保存継承や新たな文化活動の支援、ボランティア人材などと協力した次世代育成など、『個性的で魅力ある図書館』としての取組を積極的に推進します。

個別施策	説明
①ふるさとの情報 収集・保存・提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的意義のあるまちとしての役割をもつ図書館として、家康公や矢作川流域などの郷土関連資料を積極的に収集し、同時に市民のみならず、関心のある人々に広く情報提供し、シビックプライドやシティプロモーションの醸成に努めます。</li> </ul> <p>(※関連「基本施策4-1-① 地域の歴史文化や特性をテーマとした学習の推進」)</p>
②地域文化の創造の 場としての機能の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が主体的に行事などに参加し、また、自らが企画運営する取組を進めるなど、多様な利用者との協働を通じた創造的で温かみのある図書館活動を展開し、地域文化の創造を行います。</li> </ul> <p>(※関連「基本施策4-1-① 地域の歴史文化や特性をテーマとした学習の推進」)</p>
③図書館ボランティ ア等とのパートナ ーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話、点字、外国語などの知識、技能を持った市民をはじめ、子どもの読書活動の支援や本の修理など、社会貢献活動に興味を持つ市民などに支援を求め、図書館ボランティアなどとの連携による図書館づくりを進めます。</li> </ul> <p>(※再掲「基本施策5-1-② 図書館ボランティア等とのパートナーシップ」)</p>

4 質の高い図書館運営

多様なニーズに対応し、持続可能で質の高いサービスを提供できるように、中央図書館の機能を充実するとともに額田図書館、各市民センターにある地域図書室の充実やネットワーク化、スタッフの能力向上を図り、『質の高い運営をする図書館』づくりを進めます。

個別施策	説明
<p>① 中枢としての中央図書館の機能強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央図書館は、図書館サービスの中核機関として、「収集」「保存」「利用」のあらゆる面で高いレベルを備え、額田図書館や各市民センターにある地域図書室などの図書館サービス全体の総合的な管理、連携、調整、市外の図書館との連携を図ります。</li> </ul> <p>(※再掲「基本施策2-2-① 中枢としての中央図書館の機能強化」)</p>
<p>② 額田図書館、各市民センターにある地域図書室の機能強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館が市民の暮らしに身近な場所となるように、額田図書館、各市民センターにある地域図書室のサービスの充実を図ります。</li> <li>国が示す「図書館の役割として求められている地域の課題解決支援」に寄与することができるように、図書館業務専任スタッフ、資料の充実など機能を強化します。</li> </ul> <p>(※再掲「基本施策4-2-② 額田図書館、各市民センターにある地域図書室の機能強化」)</p>
<p>③ 専門スタッフの確保及び育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様で高度な専門サービスの提供をはじめ、市民の学習ニーズや地域課題の把握、学校・家庭・地域社会の連携コーディネートなど、住民の視点を踏まえた地域社会の発展に寄与する社会教育を実施できるように、職員の適正配置と研修などによる能力向上を図るとともに、有資格者の登用や民間事業者との連携などによる専門人材の確保に努めます。</li> </ul> <p>(※関連「基本施策5-3-② 職員研修の充実」、「基本施策5-3-③ 民間活力の導入検討」)</p>

### 1 計画の推進

本計画を推進し、市民の生涯学習活動を活発にするためには、市民ニーズや社会的背景を踏まえたうえで、あらゆる分野で取組を展開することが重要であり、各種事業を総合的かつ計画的に推進していくことが重要です。

また、市や活動する市民はもちろんのこと、市民活動団体、高等教育機関、民間事業者、NPOなどが、それぞれの強みを活かして以下のような役割を分担し、互いに連携しあうことが必要不可欠です。

#### (1) 市民・市民活動団体

生涯学習を推進する主役は市民です。一人一人が、自発的な意思に基づき、自分に合った方法や手段で、興味や関心のあることを、生涯にわたって学習することが重要です。

また、市民は、地域づくりなど住みよいまちづくりの担い手にもなります。個人で講座や教室を受けるだけでなく、市民活動団体や地域活動において、学んだ成果を地域に還元していくことも、学習を広げ、深める有効な方法です。

さらに、学習活動が、学習仲間や地域住民同士の交流に発展し、学習における成果と課題を共有していくことで、市全体に生涯学習の輪が広まると考えられます。

#### (2) 町内会等

本市には、町内会、学区社会教育委員会、子ども会、老人会などの団体が存在しています。これらの団体が家庭、グループ・サークル、市、学校などの様々な機関や団体と連携、協働し、住みよいまちづくりに向けた学習活動や実践活動に取り組んで行くことが求められています。

#### (3) 高等教育機関、民間事業者、NPOなど

市内には、高校、大学などの高等教育機関、生涯学習関連事業を提供している民間事業者が存在しています。これまでも、それぞれの専門性や特色を活かし、市民の様々な学習ニーズに対応できるような講座や教室など、市民が学びを深める機会をそれぞれが提供しています。

今後は、さらに様々な主体と連携、協働し、市民の多様なニーズに応える新たな講座や教室などを提供できるよう、働きかけていきます。

#### (4) りぶらサポータークラブ（Libra Supporter Club、通称：LSC）

りぶらの設立のために行われた市民検討ワークショップの中で、りぶらを市民の力でより良い施設とするため、「りぶらサポーター」として活動しようという気運が盛り上がり、平成18（2006）年度より、りぶらサポーター活動が発足しました。

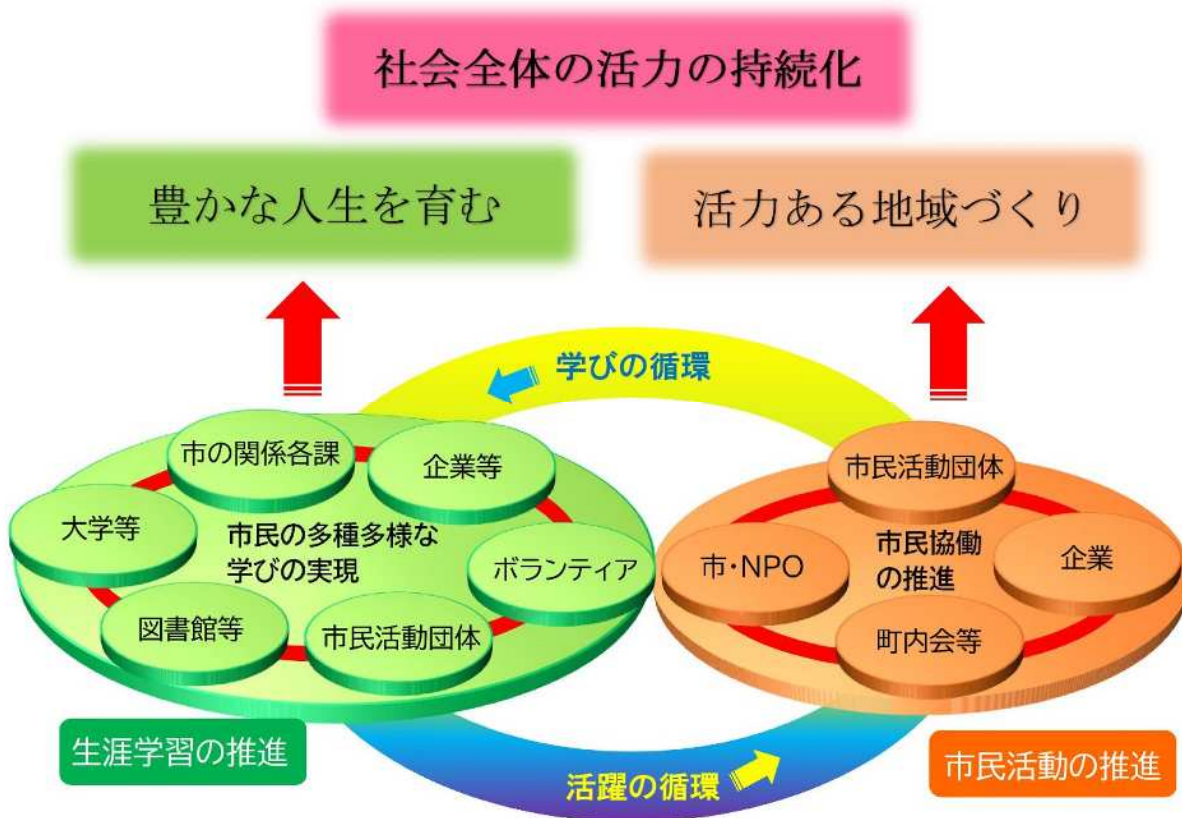
LSCには、生涯学習関連事業の実績、市と市民、生涯学習関連団体などとのつながりという独自の強みや特徴があります。これらの強み、特徴を活かし、今後も、市民と市とのつなぎ役として、LSCは市全体の生涯学習支援を継続、発展させ、本市の生涯学習推進の一端を担っていきます。

(5) 市

市は、市民のニーズを踏まえた講座の提供、学習のきっかけとなる学習情報の提供、市民やグループ・サークルが活動しやすい環境づくり、成果発表の場の提供などの取組について、生涯学習関連施設や関係各課などと連携を図りながら一体的に推進します。さらに、国、県などの関係機関や、上記に示す様々な主体と協力、連携を図ります。

2 生涯学習における活躍と学びの循環

生涯学習拠点での学びを推進するとともに、学びで得た知識や技能をもとに市民活動へ繋げる活躍の循環を図ります。また、市民活動を経て得た経験をもとに、生涯学習講座の講師をするなど、学びへ還元する循環を図ります。こうした学びと活躍の循環から、社会全体の活力を持続させ、一人一人がいきがいを持って地域をともに創る社会を目指していきます。

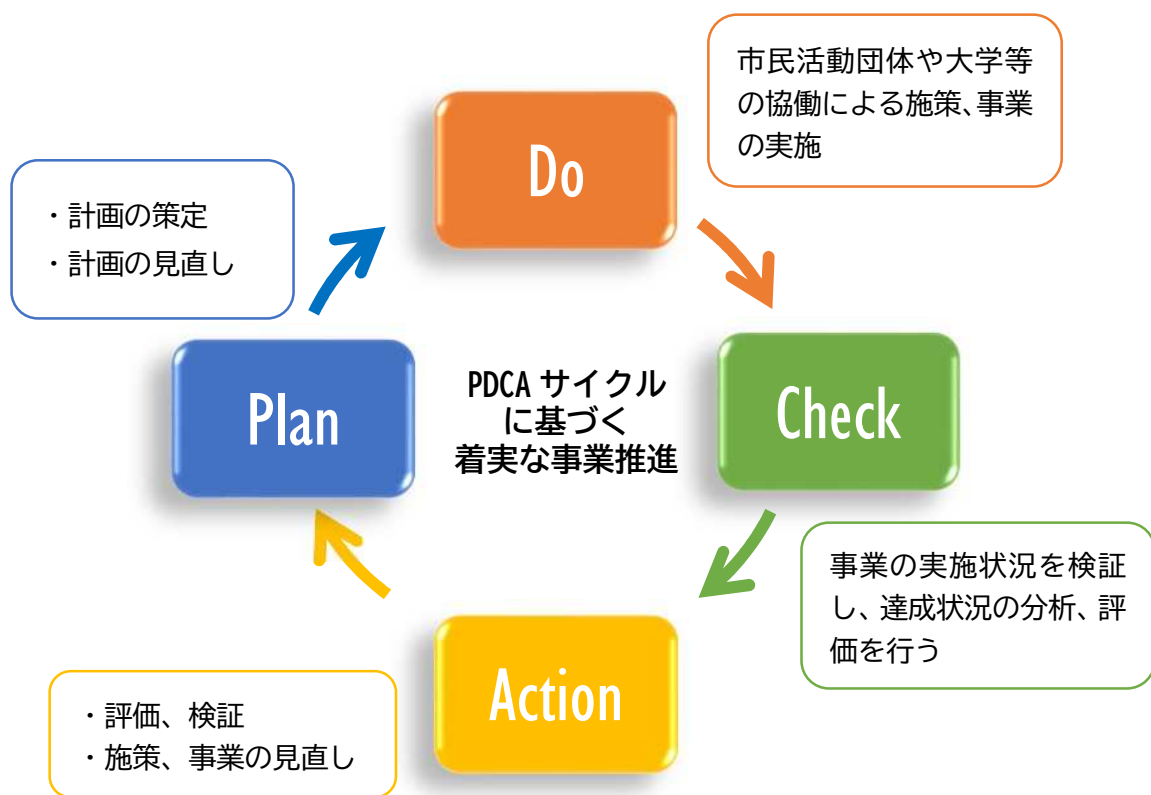


生涯学習における活躍と学びの循環

3 計画の進捗管理と評価方法

本計画は、令和12(2030)年度を目標として施策の推進を図るものであり、各施策の実施状況について実績を把握し、国や県の動向も踏まえながら計画の分析、評価を行います。さらに、社会情勢の変化や計画の進捗状況に合わせて、必要に応じて随時事業の見直しなどを行います。中間年にあたる令和7(2025)年度に、それまでの進行状況の検証を行い、必要に応じて本計画の見直しを行い、更なる充実を図ります。

こうした取組を、「PDCA(Plan:計画、Do:実践、Check:点検・評価、Action:改善)サイクル」の構築により、着実に推進します。



進捗管理の流れ

## 1 岡崎市生涯学習推進委員会 委員名簿

第3次岡崎市生涯学習推進計画の策定にあたっては、学識者や市民のさまざまな意見をいただくため、学識経験者及び市民から成る「岡崎市生涯学習推進委員会」を設置し、本計画（案）に対する助言や提言をいただきました。委員名は、以下のとおりです。

(敬称略)

役職	氏名	備考
委員長	益川 浩一	学識経験者（岐阜大学地域協学センター長教授）
委員	江良 友子	学識経験者（愛知学泉短期大学講師）
委員	山田美代子	りぶらサポータークラブ副代表、市民協働推進委員
委員	葉山 栄子	岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学参与
委員	三矢 勝司	特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた事業推進マネージャー
委員	浅岡 悦子	市民公募委員
委員	坂口 啓子	市民公募委員

## 2 第3次岡崎市生涯学習推進計画 策定経過

年月日	内容
令和2年9月29日	第1回岡崎市生涯学習推進委員会 ①「第3次岡崎市生涯学習推進計画」の策定について ②市民アンケート（案）について
令和2年10月1日～ 令和2年10月30日	図書館利用者アンケートの実施 （中央図書館、額田図書館、南部市民センター図書室、各市民センターの利用者、合計3,000人に対しアンケートを配布）
令和2年11月10日～ 令和2年11月24日	岡崎市生涯学習に関する市民意識調査の実施 （市民3,000名対象）
令和2年12月14日	第2回岡崎市生涯学習推進委員会 ①第3次岡崎市生涯学習推進計画素案について ②今後のスケジュールについて
令和3年1月6日～ 令和3年2月8日	パブリックコメントの実施
令和3年3月12日	第3回岡崎市生涯学習推進委員会 ①パブリックコメントの結果について ②第3次岡崎市生涯学習推進計画（案）について
令和3年3月	第3次岡崎市生涯学習推進計画 策定・公表



### 第3次 岡崎市生涯学習推進計画

発行年月：令和3年3月

編集・発行：岡崎市社会文化部市民協働推進課

(2021年4月より 社会文化部生涯学習課)

〒444-0059 愛知県岡崎市康生通西4丁目71番地

電話：0564-23-3175 FAX：0564-23-3165





